

プロジェクト名

GNSSと地上データの融合による新たなスポーツ市場の開拓

衛星データ利用者名

株式会社 アシックス  
パフォーマンスゴールシステム株式会社

サービス提供者名

NTTコムウェア株式会社  
慶應義塾大学大学院SDM研究科

プロジェクト概要

- GNSSと地上データの融合による選手の怪我予防、チームの戦術の理解度への貢献
- ラグビー/ホッケー/テニス/車椅子テニス/トライアスロンでデータ活用による目標への達成度/戦術の理解度の確認
- 市場開拓のため、チームへのサービス展開可能性とスポーツメーカーが活用する実測データとしての活用可能性の検討

導入前

監督/コーチの経験に基づいた練習メニュー

スプリント 持久走 筋力アップ ...

練習メニューが過去習慣の踏襲

練習量が多い  
例：  
必要以上の距離  
を走行

練習強度不足  
例：  
走行距離だけ意  
識しているため、遅  
い速さで走る

監督/コーチから選手へ経験に基づいたアドバイス

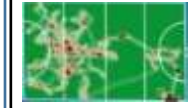
導入後

客観的なデータに基づいた練習メニュー

パフォーマンス/  
コンディション 怪我予防 戦術

客観的なデータに基づいた意思決定

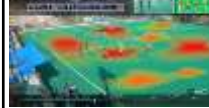
フォーメーションの  
可視化把握



選手の特徴表示



理解しやすいUI



監督/コーチから選手へデータに基づく客観的なアドバイス

【報告一例】

- GNSSから位置情報、移動距離
- 心拍計から練習中の心拍数
- カメラから選手の練習映像



- プレー中の軌跡、位置、速さ、視野を確認し、選手が戦術を理解し、実行できたかを確認できる



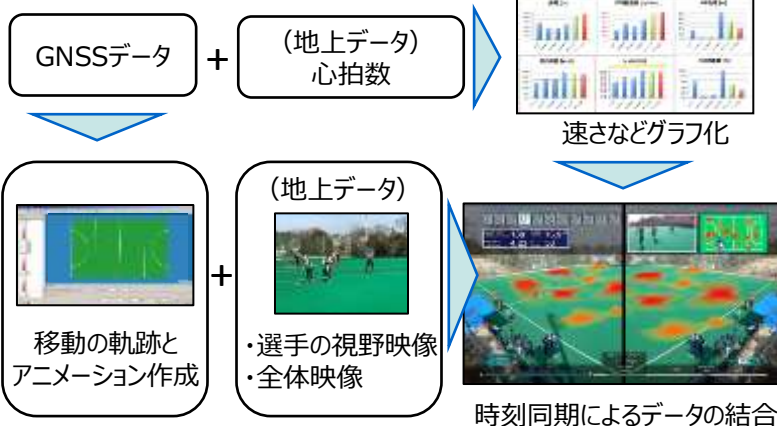
移動軌跡



シーンの確認

- 過去の自分や目標選手のデータと比較できる
- 監督が練習/試合のパフォーマンスや戦術についてデータを使って選手に説明できる

【どのように解析したか】



【成果の概要】

- GNSS、心拍計、カメラを組み合わせることで、プレー中の移動軌跡、フィールド上の位置、ある瞬間の速さおよび視野と相手の関係性を可視化し、選手が監督の戦術を理解し、実行できているかを確認した
- 本実証の取り組み内容は、各競技の監督から継続したいとのニーズもあり、マーケット拡大の可能性はある
- スポーツメーカー等は、データを蓄積・活用すれば新たな商品開発につながる
- 幅広いスポーツに普及させるには、デバイスのコスト負担が減らすことが必要